

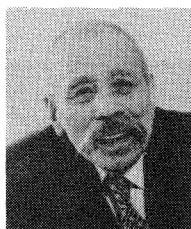
上 原 敬 二 (うえはら けいじ)

進 士 五十八

(東京農業大学造園学科教授)

上原敬二は、日本の造園学草創期の代表的人物で、研究・教育・著述・団体育成など全てに才と努力をはらった。特に著述では、わが国で初の造園の学術・技術・対象・方法の全体的枠組みを系統化した『造園学汎論 (1924)』にはじまり、専門中の専門の『応用樹木学 (上下2巻・1942)』、『樹木大図説 (全4巻・1959)』、『樹芸学

叢書 (全8巻・1964)』、その他『ガーデンシリーズ (全20巻・1966)』、『造園古書叢書 (全10巻・1972)』、そして個人による造園学の体系化の試み『造園大系 (全10巻・1975)』、『造園大辞典 (1978)』にいたる造園学万般に関する大作を中心に、優に200冊をこえる著作をものしている。もちろん『都市計画と公園 (林泉社・1924)』をはじめ、『日本風景美論 (大日本出版・1943)』、『植樹と緑の国土 (同和春秋社・1951)』、『人のつくった森 (東京農大造園学科・1971)』、『公園論』、『計画』、『植栽・並木』、『世界並木写真集とグリエ (以上、加島書店・~1977)』、『この目で見た造園発達史 (同左刊行会・1983)』など都市計画学分野に直接する著作も少なくない。



上原敬二は、明治22年 (1889) 2月5日東京市深川区の材木屋の次男として生まれ、府立3中、第1高等学校大学予科卒業の後東京帝国大学農科大学林学科、同大学院にすすみ、当時、新しかった「森林美学」に関心をもち本多静六教授のもとで「造園学」の創始に加わる。帝大林学科は大正3年 (1914) 卒業。翌4年大学院在学中、明治神宮造営局技手に任命され、神宮の森の造成に従事、そこで研究成果をとりまとめた『神社林の研究 (大正9年、1920)』で林学博士の学位を受ける。その年から翌年にかけ欧米留学、ランドスケープアーキテクチャを学び、震災復興のための造園技師養成を発意、弱冠34歳でわが国初の造園専門技術者養成機関である「東京高等造園学校 (現、東京農大農学部造園学科の前身)」を創設、初代校長となる。時に大正13年 (1924)。翌年、社団法人日本造園学会や日本児童遊園協会を創立するほか、日本庭園協会 (1918)、国立公園協会 (1927)、日本造園士会 (1938)などを次々に主導創設し、造園の社会化を果たした。戦後の教育歴は、昭和28年東京農業大学教授／造園学科長、昭和50年同大名誉教授。日本造園学会名誉会員、没後同学会に上原敬二賞が制定。風景地・公園・庭園計画など250作品も。1981年10月24日没、享年92歳。